

令和 7 年度

函館白百合学園高等学校

一般入学試験問題

国語

全コース共通

令和 7 年 2 月 1 3 日（木）実施

注意事項

1. 試験時間は 5 0 分です。
2. 問題は□から□まであり， 1 4 ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し，解答用紙だけ提出しなさい。

一

次の問いに答えなさい。

問一 次の――線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 幸せをツイキユウする。 ② 山をオオウ雪。
- ③ 願いがジョウジュする。 ④ 帝が国をオサめる。
- ⑤ 提案をケントウする。 ⑥ あなたはケントウ違いをしている。
- ⑦ 川に橋がカかる。 ⑧ 合格をカクシンする。

問二 次の――線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 去る者は日々に疎し。 ② 神社の境内。
- ③ 思いの外困難だ。 ④ 人の声色をまねる。

問三 次の――線の□に漢字一字を入れて慣用句を完成させなさい。

- ① 妹のいたずらに□を焼く。
- ② 今になって二の□を踏む。
- ③ 問題が解決して□をなで下ろす。

問四 次の意味として最も適当な四字熟語を、ア～オから選びなさい。

① 非常に大切な決まり。

② 人の話にすぐ賛同するさま。

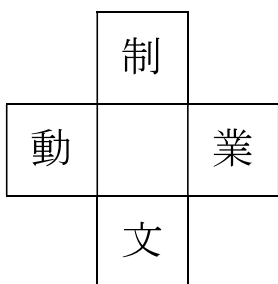
③ おもしろみのないこと。

ア 無味乾燥 イ 呉越同舟 ウ 我田引水 エ 金科玉条 オ 付和雷同

問五 次の文はいくつの文節からなるか。漢数字で答えなさい。

彼女はこのことをよく承知している。

問六 次の図は、中央に一字を入れると、上下、左右で二字熟語となる。中央の空欄に入る漢字一字を答えなさい。



次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

（琵琶の名手である法深房の）長女が、

あまりに（琵琶の稽古を）怠けて走り回って遊んでいたのを、懲らしめようとして、（長女が）持っていた小さな琵琶を取り上げて隠し、

怠けることに

（法深房の）嫡女、七歳の年、あまりに不用にて走り遊びけるを、懲らさんとて、所持の小琵琶をとり隠して、「早く不用を

専念して、琵琶などに心を注ぐことなどするな」

と言って しばらく（琵琶を）取り上げ隠していたことを、幼心にひどく嘆いて、

乳母を通して

道に立てて琵琶などをば心になかけそ」とて、しばしとり隠したりけるを、幼き心にあさましく嘆きて、乳母にともすれば、

悲しい気持ちを訴えて謝ったけれど、やはり許さない。

憂へ怠状しけれども、**1** なほ許さず。

こうしているうちに

賀茂神社へお参りしたときに、

この幼い子を連れて行った。

家に戻った後、「それにしても賀茂神社では何を（お願い）申し上げたのか」と

かかるほどに、母、賀茂へ**2** まうでけるに、この少人を具したりけり。下向の後、「さても賀茂にては何ごとを申しつる」と

尋ねられて

「ひたすら琵琶を思ふ通りにひかせて下さいとだけ申し上げた」

と

答えた。

（父は）

許して

問はれて、「ただ琵琶をよく弾かせ給ふところぞ申しつれ」とぞ、答へける。この言葉を**3** あはれみて、勘当許して、小琵琶

返して与えたので、

この後心を込めて（琵琶の）道に専念して、

長い間努力を重ねて当時第一の琵琶の奏者になった。

返し与へたりければ、よろこびて、これより心に入れて道をたしなみ、功を入れたること第一なりとぞ。

（『古今著聞集』）

問一 ―― 線**1**「なほ許さず」とあるが、**①**だれが、**②**だれを「許さず」なのか。**①・②**に当てはまる人物をそれぞれア～エから選びなさい。

ア 嫡女 イ 父（法深房） ウ 母 エ 乳母

問二 ―― 線**2**「まうで」を現代仮名遣いで書きなさい。

問三 ―― 線**3**「あはれみて」のこの場合の意味として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 気の毒に思っ
イ 悲しく思っ
ウ 腹を立てて
エ 感動して

問四 本文の内容として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 長女のやる気を引き出したくて、父親は無理やり彼女から琵琶を取り上げ、隠してしまった。
イ 長女は父親に取り上げられた琵琶をなんとか取り戻したくて、乳母を通じて父親に謝った。
ウ 長女は、賀茂神社にお参りをした際に、琵琶が上手になるようにと一生懸命お祈りした。
エ 長女は、母親から琵琶を返してもらって喜び、その後、稽古に専念するようになった。

問五 『古今著聞集』と同じジャンルである説話集を、ア～エから選びなさい。

ア 平家物語 イ 宇治拾遺物語 ウ 伊勢物語 エ 枕草子

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ワシントンの大学に留学していた香子と治貴は交際し、やがて結婚した。治貴は、アメリカ人でも難関である司法試験に合格して弁護士となり、一戸建ての家を持つことが二人の共通の夢となった。現在、香子は娘の有香の育児に忙殺されており、家探しは治貴が一人で行っていた。

――今日ね、あつ、**1**コレだつていう家を見つけたよ。

治貴がそう言ったとき、香子はまたもや**2**とんちんかんなことを言った。

――ホントー？ 気に入るといいわねえ。

治貴は香子のそのことばに、天井を向いてハッハッハッと笑い、それから言った。

――気に入るさ、きつと。お前も絶対に気に入るだろうと、俺は思うよ。

――そうして治貴は、いたずらっ子のような目で香子を見つめたのだった。

そのときはなぜ治貴がそんなことを言うのか判らなかった香子だが、翌週の土曜日、ベビイシッターに有香を預け、実際に*ヴィエナまで車を飛ばして家の実物を見たときは思わず口を開けっぱなしにして「わあ……」と呟いたまま突っ立ってしまった。治貴はそんな香子を実に**3**愉快そうな顔で笑いながら見ている。

4夜も昼も文字通り休む暇もなく働き、始終もやのかかったような頭で過ごしていた日々のが、香子の中でふわっと甦った。ボロボロのホンダの車での夜中のドライブ。必ず見にいった*フェアアックス沿いの治貴のお気に入りの家。

――絶対**5**ああいうの建てるんだ、俺……。

そんな治貴の呟き。

それらのすべてが、経てきた時間、その間に起こったさまざまな出来事をすっ飛ばして、今キラキラと眩しい陽射しを浴びながら静かに佇んでいる煉瓦づくりの家を前に呆然と突っ立っている香子の中で**a**サイセイした。

――憶えてた？

にこにこ笑いながら、治貴が訊ねる。「**6**」そう叫びたいのに、香子は**b**タマシイを抜かれたようにただコクコクと何度も頷くだけだ。それくらい、ヴィエナで治貴が見つめてきた家は、あのころよくふたりで見にいったフェアアックス沿いの家に似ていた。広い前庭、煉瓦の煙突、銀色のポスト――。

――で、お気に召しまして？

治貴がわざとそんなふうに言う。香子はそれに対する答のかわりに言った。

――ハル！ あなたたってすごいわよ。

治貴はさつきからずっと、にこにこ笑い続けたままだ。それから治貴は前庭に踏みこみ、これからの自分たちの城になる建物のあちこちを見ながら言った。

——このポストは結構もう錆びついてつかから取り替えような。それと……、ホラ香子もこつち来いよ、玄関の扉も新しいのにしようと思ってるんだ。

香子は治貴に手を引かれるまま、夢遊病患者みたいな足どりで「城」の敷地に入る。驚きと嬉しさでぐるぐる廻っている頭の中で、いつか有香が大人になったとき、この日のことをどんなふうに説明してあげようかと考えていた。

あなたのパパは世界一幸せみたいな顔で笑ってたのよ。もちろんママも同じような顔してた。自分が見つけてきたすごい宝物を見せたくて仕方がない男の子みたいな顔して、パパはママの手を引いたの。

ああ、けれどその前に、ボロボロの車でのドライブのことも話して聞かせてあげなくちゃ。**C**シンケンな面持ちで家を見つめている治貴の隣りで、自分はハンバーガーにかぶりついていたこと。水道の出の悪いアパートの話。真ん中がへこんだベッドの話。そのあと有香の父親がどのように自分の夢をひとつずつ叶えていったか。どれほど有香の誕生を喜んだか。どれほど強い力で家族を守ったか。どれほど強い心の持ち主か。すべてすべてを、話して聞かせてあげなければなら**7**ない。

——ハル、あなた。

まだ埃くさい空気が、窓からの明るい陽射しの中を漂っている家の中に足を踏み入れたとき、香子は突然立ち止まって先に行く治貴に声をかけた。つないだ手を引くようにしたまま治貴も立ち止まり、まだにこにこした顔で香子を振り返る。

——何？

香子にはやっと笑って言った。

——*マックスがいらないわ。

治貴はにこにこ顔から「しまった」という顔になり、口の先をとんがらせた。

——やっぱ憶えてたか。マックスはもうちよつと待ってくれ。

そう言々と治貴は、また宝物を見つけた少年の顔に戻り、早く二階を見にいこうと香子をせかした。

ふたりともとてつもなく幸せな気持ちでいるのに、いや、だからこそ、**8**帰りの車の中での治貴と香子は**ことば少な**だった。ふたりだけに通じる密な空気を感じることで手いっぱいだったのだ。

*プレッツェルが主食だったようなあのころの生活を思い出すと、ことばどおり胸がいっぱいになったけれど、「やっとここまで来たんだね」などということばで今の空気を壊してしまいたくないと、お互いを感じていた。このひとと一緒にやって来てほんとうに良かったと、香子は心の底から思っていた。自分の知っている喜びや嬉しさの種類は、すべて治貴が教えてくれたものであるような気がした。

（鷺沢 萌 『大統領のクリスマス・ツリー』）

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

* ヴィエナ……アメリカの地名

* フェアファックス……アメリカの地名

* マックス……当時、アメリカのドラマに出てきた大富豪の家の執事のこと。二人が憧れの家をよく見に行っていた時に、執事がいるほどの大豪邸を持ちたいという冗談で、いつも引き合いに出されていた。

* プレッツェル……スナック菓子

問一 ――― 線1 「コレだ」とあるが、それを具体的に示したものとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| ア | とても愉快だ | イ | かなり高価だ |
| ウ | これこそ家だ | エ | まさに理想だ |

問二 ――― 線2 「とんちんかんなこと」の意味として適当でないものを一つ、ア～エから選びなさい。

- | | | | | | | | |
|---|---------|---|----------|---|--------|---|---------|
| ア | 的はずれなこと | イ | 道理にかなうこと | ウ | 無関係なこと | エ | ちぐはぐなこと |
|---|---------|---|----------|---|--------|---|---------|

問三 ――― 線3 「愉快そうな顔」とあるが、自分が見つけてきた家を香子に紹介している時の治貴の表情を具体的に表現している部分を三十字前後で本文中より探し、最初と最後の五字を書き抜きなさい。

問四 ――― 線4 「夜も昼もく過ごしていた日々」とあるが、貧しさの中で働き続けた過去の生活について表現した部分を、本文中より二十二字で書き抜きなさい。

問五 ――― 線5 「ああいうの」が指しているものを、五十字以内で説明しなさい。

問六 「 6 」の中に当てはまる最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 覚えているはずないでしょう！
イ ふぎけるのはやめて！
ウ あたり前じゃない！
エ 何も言わないで！

問七 線7 「ない」と同じ性質のものを次より選び、ア～エから選びなさい。

- ア そんなだらしないことはやめなさい。
イ 明日からテストだというのに、妹はちつとも勉強しない。
ウ それが全ての方法なのではない。
エ 良いか悪いかなんてわかるわけがない。

問八 線8 「帰りの車の中での治貴と香子はことば少なだった」の理由を説明した、次の文の「 」に入る適切な言葉を、本文中から指定の字数で書き抜きなさい。なお、「 2 」は五字程度で考えて書きなさい。

ふたりが共有している、夢を叶えるために頑張ってきた過去の日々がよみがえって「 1 六字 」ではあるが、やっと「 2 五字程度 」ところまでこぎつけたのだと実際に言葉に出してしまうことで、今ふたりが共通に感じている「 3 十二字 」に浸っている空気を壊したくないと「 4 三字 」が感じていたから。

問九 線a～cのカタカナを漢字に改めなさい。

四

次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

「クラスはみんな仲良く」という考え方には、昔はたしかに**1** 現実的な根拠があつたのです。なぜなら、小学校はだいたいムラに**一**つだからです。

「自然村」といわれる農村社会学の概念がいねんがあります。行政村と対比される概念で、だいたい室町時代から江戸時代までの間に人びとが自然に集まってできた集落のことですが、明治時代になってこの自然村を基盤に小学校が建ってくるわけです。そうすると、そこは代々家族ぐるみで顔見知りの子供たちが集まることになります。お互い親同士も顔見知りで、場合によっては何代も前から、「あの家はこうで、こっちの家はああで」と知っていて、「あの家から今度は次男坊ぼうが入ってきた」というような、学校を支える地域ぐるみでの濃密な関係がはじめからできていたのです。

そういう中で学校やクラスの運営がされていたわけで、**2** 近隣ネットワークのあり方が今とは全然違うわけです。昔の濃密な近隣の支えがあつてはじめて、「クラスみんなが仲良くなれるかな」という状態だったのです。

むろん、昔のそういう時代だって、じつさいはクラス全員が仲良くなるというのは難しかったとは思いますが。でも、今に比べれば、ムラの共同的生活を核にした地域の支えがとても強かった。村中が**a** 総出で田植えや稲刈りを共同で行ったり、道路が傷めば道普請みちぶしんをし、共有林の下刈りなどの共同作業もありました。そうした地域の支えという現実的根拠があるからこそ、**3** 学校における共同性は実現していたわけです。

しかしとりわけ一九八〇年代以降は、都市部ばかりではなく地方においてもそういう支えがほとんどなくなってきていて、地域自体が単なる偶然にその場に住んでいる人たちの集合体になっています。同じ地域から学校に通って来ていると言っても、先生方は今でもついつい「クラスは運命共同体だ」というような発想になりがちなのだけれども、子どもたちは単なる偶然的な関係の集まり、だとしか感じていない場合が多いのです。

こうした状況の中で、クラスで本当に「こいつは信頼できるな」とか、「この子といると楽しいな」という、気の合う仲間とか親友というものと出会えるということがあれば、それはじつは、すごくラッキーなことなのです。そういう友だちを作ったり出会えたりすることは当然なのではなくて、「とてもラッキーなこと」だと思っていたほうが良いことは多いような気がします。

そういう偶然の関係の集合体の中では、当然のことですが、気の合わない人間、あまり自分が好ましいと思わない人間とも出会います。そんな時に、**4** そういう人たちとも「並存」「共在」できることが大切なのです。

そのためには、「氣に入らない相手とも、お互い傷つけあわない形で、ともに時間と空間をとりあえず共有できる作法」を身につける以外にないのです。大人は意識的に「傷つけあわず共在することがまず大事なんだよ」と子どもたちに教えるべきです。そこを子どもたちに教

育していかないと、先生方のこれからのクラス運営はますます難しくなると思います。「みんな仲良く」という理念も確かに必要かもしれませんが、「気の合わない人と並存する」作法を教えることこそ、今の現実 に即して新たに求められている教育だということです。

子どもたちに対するこうした教育の方向性は家庭でも必要なことだと思います。

子どもが「○○ちゃんていうムカつくやつがいる」と家ですと漏らしたときに、「その子にもいいところはあるでしょう。相手のいいところを見てこつちから仲良くする努力をすれば、きっと仲良くなれるよ」というのは一見【5】大人の意見ですよね。その理想どおりに運ぶこともあるでしょうが、現実にはなかなか難しいかもしれません。こんなときは、「もし気が合わないんだったら、ちょっと距離を置いて、ぶつからないようにしなさい」と言っただけの場合もあると思います。

これは「冷たい」ではありません。無理に関わるからこそ、お互い傷つけ合うのです。ニーチェという哲学者の言葉で、「愛せない場合は通り過ぎよ」という警句があります。あえて近づいてこじれるリスクを避けるという発想も必要だということです。

ニーチェは、（「中略」）「**6**ルサンチマン」というキーワードに焦点を当てて、ものを考えた人です。ルサンチマンとは「恨み、反感、嫉妬」といった、いわば人間誰もが抱きうる「負の感情」のことです。

誰でも、自分がうまくいかなかったり、世の中であまり受け入れられなかったりしたときに、自分の力が足りないんだと反省するよりも、**b**往々にして「こんな世の中間違っているんだ」と考えたり、うまくいっている人たちを妬んだりするものです。そんな感情を自覚して、「どうやりすごすか」を考えることが大切です。（「中略」）「やりすごす」という発想が、非常に大事なことで私は思っています。

自分ができないことがやすやすとできる人、自分より**c**容姿に恵まれていたり、人から愛されている人——そういう人を見ていると心ざわざわして落ちつかなくなる時がありませんか。

人が生きていくうえで、ルサンチマンに絡め取られそうになる場面はたくさんあります。人間の生にとつて必要な負の感情として、ルサンチマンには人間の本質的な何かがあるのです。ルサンチマンは誰にでも起こりうる感情です。しかし、ルサンチマンにとられすぎたり、とられ続けたりすると、結局のところ、自分自身の「生」の可能性を閉ざしてしまうことにつながるのです。だからこそ、それにとられ続けられないことが大切なのです。

（「中略」）

自分がそんなルサンチマンの感情に囚われがちなときは「自分は自分、人は人だ」という、ちょっと突き放したようなものの見方をした方がいいと思います。「私とは関係ないでしょ」ということですね。

「関係しよう、関係しよう」とするから、話がこんがらがってくるのです。

「クラスはひとつ、みんないっしょだ」というような幻想が強すぎると、人と少し違う子がルサンチマンのターゲットになってしまうことがあるのです。体育祭や文化祭など、学校行事の中で何か目的があるときに、期間限定で団結して一生懸命になれることは、とてもいいと思います。でも、日ごろはやはり**7**「あまり濃密な関係を学校空間の中で求めすぎない」ということが、教師や大人の心得として、じつは大事なのではないかと思っています。

（菅野 仁 『友だち幻想』）
※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一 ——— 線**1**「現、実、的、な、根、拠、」とあるが、それは何か。本文中より十八字で書き抜きなさい。

問二 ——— 線**2**「近隣^{きんりん}ネットワークのあり方が今とは全然違う」とあるが、「近隣ネットワークのあり方」の違いについて説明した次の文の「**1**」に入る適切な言葉を、本文中から指定の字数で書き抜きなさい。

昔は代々家族ぐるみで付き合い、お互いの家族構成までわかり合っているような地域ぐるみでの「**1 五字**」があったが、今は同じ地域に住んでいても、地域自体が「**2 二十二字**」になっており、そこでの関係も「**3 五字**」となっている。

問三 ——— 線**3**「学校における共同性は実現していた」とあるが、「学校における共同性」が「実現し」た状態を、本文中の言葉を用いて次の文末につながるよう具体的に書きなさい。ただし、十字以上十五字以内のこと。

十字以上、十五字以内
という状態。

問四 ―― 線4 「そういう人たち」とあるが、「そういう人たち」に当てはまるのは誰か。「月子」と「雪子」の会話を読み、当てはまる生徒を一人、A～Dから選びなさい。

月子 Aさんって、すごく考え方が大人だよな。

雪子 確かにそうだ。だから意見が割れてもAさんがいると場がうまく収まるね。Bさんも同じタイプだと思う。

月子 でも、Bさんはけっこう感情が表情に出るタイプのようないきがするよ。

雪子 そうなんだ。ハキハキ言うタイプだとは思っていただけ。

月子 Cさんもハキハキ言うタイプだよ。でも、人を傷つけるような発言を聞いたことがないな。

雪子 その点、Dさんはいつも他人の悪口ばかり言っているよね。人前ではいい顔しているけど。あまり親しくしたいタイプではないな。

月子 そうかもしれない。確かにBさんはすぐ思ったことが顔に出るけれど、その分裏表がないから、案外付き合いやすい人ではあるね。

問五 ―― 5 ―― に当てはまる最も適当な言葉を、ア～エから選びなさい。

ア 心の狭い イ 懐の広い ウ 顔の広い エ 考えの狭い

問六 ―― 線6 「ルサンチマン」について、生徒A～Dが話している。A～Dの発言のうち、**本文の内容に合わないもの**を一つ選びなさい。

- A 人間は、どんな時でも、他人をうらやんだり妬^{ねた}んだりという「負の感情」を抱くように生まれついているよね。
- B だから「負の感情」にとらわれた時は、いつそ「こんな世の中間違^{ちが}つてる」と自覚して、やりすごすことが大事だと思う。
- C ルサンチマンにとられ続けていると、自分がどう生きるかという可能性にも気づかないから、結果的にもつたいないな。
- D 結局のところ、他人をうらやむよりも、「自分は自分、人は人」と割り切った方が、前向きに生きていけるよね。

問七 ――― 線7 『あまり濃密な関係を学校空間の中で求めすぎない』ということが、教師や大人の心得として、じつは大事』とあるがどういうことか。それを説明した次の「1」に入る適切な言葉を、本文中から指定の字数で書き抜きなさい。また、「2」は六十字以内で考えて書きなさい。

現在の学校は、かつてのように代々のつながりを中心とした地域の共同性がほとんどない中で存在しているため、そこに集まった生徒たちも共同意識を持ちにくい背景がある。そういう状況では、クラスで「1 十字」を作ることとはむしろ難しいことで、

「2 六十字以内」を教えることこそが、今の現実にして新たに求められている教育だということ。

問八 ――― 線a cの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

一般入試

四 五

受 験 番 号	
---------	--

--

題名

十 位 小	
十 位 小	

小計	
----	--

小計	
----	--

一般入試

令和七年度 函館白百合学園高等学校入学試験

国語

解答用紙

受験番号	
------	--

氏名	
----	--

100	得点
-----	----

一

問一

① 追求

② 覆う

③ 成就

④ 治める

⑤ 検討する

⑥ 見当

⑦ 架かる

⑧ 確信

問二

① うとし

② けいだい

③ ほか

④ こわいろ

問三

① 手

② 足

③ 胸

問四

① エ

② オ

③ ア

問五

① 六

問六

① 作

二

問一

① イ

② ア^{②×2}

問二

① もうで

問三

① エ

②

問四

① イ

③

問五

① イ

三

問一

① エ

②

問二

① イ

②

問三

① 自分が見つく

②

③ 自分が「なし」でマイナス1点
③ みたい

④

問四

① ブレツツエルが主食だったようなあのころの生活

②

問五

① かつてふたりでよく見にいったフエアファックス沿いの

②

③ 広い前庭、煉瓦の煙突、銀色のポストがある家。

④

問六

① ウ

②

③

問七

① イ

②

問八

① 胸がいっぱい

②

② 「家を買える」など

③ 家を買う

④

③ とてつもなく幸せな気持ち

②

④ お互い

②

問九

① a 再生

②

③ b 魂

④

⑤ c 真剣

①×3

四

問一

① ムラの共同的生活を核にした地域の支え

②

問二

① 濃密な関係

③

② 単なる偶然にその場に住んでいる人たちの集合体

③

③ 偶然の関係

③

問三

① クラスがみんな仲良くなる

②

④

問四

① D

②

問五

① イ

②

問六

① A

②

問七

① ① 気の合う仲間とか親友

③

② 無理に関わってお互いを傷つけあうよりも、気が合わない人たちとはちよつと距離を置いて、ぶつからないようにすること

⑥

問九

① a そうで

②

③ b おうおうにして

④

⑤ c ようし

①×3

各1点(問41はそれぞれ完全解答)

小計

11

小計

20

小計

34

小計

35